

電源地域産業育成支援補助事業評価報告書

1. 補助事業名

いばらきの魅力発信事業（マーケティング事業）

2. 補助事業の事業主体

茨城県

3. 補助事業の実施場所

茨城県、埼玉県

4. 補助事業の概要

本県の観光産業の支援を図るため、以下の事業を実施した。

（1）アウトドア資源を活用した魅力発信

需要が高まる本県のキャンプについて、広報媒体等での情報発信を継続的に行うとともに、アクティビティや食をかけた合わせたキャンプイベントを開催し、周辺地域に及ぼす経済効果等についてマーケティング調査を行った。

（2）大洗の観光資源を活用した魅力発信

大洗町の地域資源である「海」に着目し、海水浴期間外の閑散期にナイトタイムイベントを開催することで、観光需要を創出するとともに、絶景を通じた大洗の「海」のブランド力を強化し、持続的なコンテンツとして定着を図るため、来場者へのマーケティング調査を行った。

（3）観光キャンペーンを活用した魅力発信

首都圏等において観光キャンペーンを開催し、コロナ禍において訴求力の高かった「アウトドア」や本県の強みである「海水浴」といったコンテンツのPRを継続するとともに、アフターコロナにおける旅行意欲等についてマーケティング調査を行った。

5. 補助事業に要した経費及び補助金充当額

補助事業に要した経費 54,256,000 円

補助金充当額 54,256,000 円

6. 補助事業の成果及び評価

(1) アウトドア資源を活用した魅力発信

コロナ禍に客層が広がったキャンプ需要を契機として、キャンプに加え、アクティビティや食を切り口とした観光誘客を進めるため、令和5年10月に涸沼自然公園キャンプ場（茨城町）において、大型イベントを開催した。キャンプやアクティビティ、地域の食が地域振興や観光消費額の増加に繋がるよう自治体や民間事業者に参加を呼び掛けたところ、5自治体69事業者が参加し、本県のアクティビティや食を提供することで、本県の魅力発信に寄与した。

また、令和6年2月にファミリーキャンプほこたBASE（鉾田市）において、冬キャンプの可能性を検討するために小型イベントを実施した。参加型の食コンテンツへの引き合いもあり、イベント満足度も高かった。

どちらのイベントも参加者のリピート意向は高く、今後はその需要を捉えて再来訪に繋がる施策を検討する。

(2) 大洗の観光資源を活用した魅力発信

閑散期の誘客促進を図るとともに、宿泊を促進し、滞在時間の延長及び観光消費額の拡大を図るため、海でのナイトイベントを令和5年10月20日～22日に実施した。マーケティング調査の結果から、イベントに対する満足度は「非常に満足」と「満足」で約88%であり、概ね好評だったと評価できるほか、今後もイルミネーションイベントを開催してほしいとの意見が多いことが分かった。

今後、この結果を踏まえて、イルミネーションを活用した誘客コンテンツの定着化を図る施策を検討する。

(3) 観光キャンペーンを活用した魅力発信

令和5年6月30日～7月2日にイオンレイクタウン（埼玉県越谷市）において観光キャンペーンを開催し、電源地域市町の観光ブースを設置して観光PRを実施したほか、キャンペーン来場者及びイオンレイクタウン周辺在住者約600名に対してマーケティング調査を実施した。

マーケティング調査の結果から、茨城県への旅行を考えている近隣の県（特に埼玉県）の方は、距離の近さだけでなく、観光

地の情報の少なさを理由として、宿泊を伴わない日帰り旅行を選択する要因になっていることが分かった。
今後、この結果を踏まえて、観光情報の発信の方法や発信内容を検討する。

【目標値】

	目標値	実績値
県内観光消費額	4,000 億円 (2025 年まで)	3,576 億円
イベント開催時における周辺地域での消費額	5,980 円/人	5,630 円/人